

平成30年度における四條畷市野外活動センターの管理運営に対する評価票

所 管 課：教育委員会 青少年育成課

評価対象：平成30年4月1日～平成31年3月31日

評価委員会開催日：令和元年10月17日

1 指定管理者

指定管理者	特定非営利活動法人ナック
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日（5年間）
施設概要	市民が余暇時間の活用として日常生活から離れ、豊かな自然環境の中で、森林浴や日光浴などを通じて、心身のリフレッシュを図るとともに、新たな仲間づくりやコミュニティづくりを進めることを趣旨とする。
指定管理料	13,200,000円（平成30年度）

2 管理運営の内容

項 目	平成30年度の状況
運営状況	（1）平等利用の確保 ①すべての利用者に対して情報の提供、施設の利用許可、調整などにおいて、サービスの均一化を徹底し、公平、公正な対応に努めた。 ②個人、家族などの少数から、学校単位といった大規模な団体。また、高齢者、障がい者など幅広い層の方々に等しく利用の機会を提供するため、利用者や活動内容、ニーズを配慮した活動場所の調整、利用のアドバイス、当日の援助に努めた。 （2）自主事業の展開 ①施設が保有する天体機器を活用した天体観望事業や流星群などの天体トピックスの事業を盛り込み、家族を中心とした参加者に広く天体への関心を持っていただけるよう努めている。特に「SORA☆星の学校」では、指導員指導のもと、自ら望遠鏡に触れ、天体をとらえて観ることができた瞬間の感動を体感できる形で天体観望会を実施している。また、大阪府内で唯一となる「星空案内人養成講座」は、平成30年度は第3期も定員以上に申込みがあり、サイエンスコミュニケーターとしての星空ボランティアを育成し、「SORA☆星の学校」や施設の天体プログラム事業をサポートにあたっている。 ②小学生を対象とする「宿泊型子どもキャンプ」、家族間での自然体験の共有と親子間のコミュニケーション促進をコンセプトとした事業、保護者は送迎のみで、就学前の幼児対象の「森のようちえん・キッズ」を行い、子どもやファミリー層を中心とした事業を行っている。また、「かぶとむしプロジェクト」を実施し、生き物を育てることの難しさを体感することと、近隣の森にかぶとむしを増やすことを主旨に事業に取り組んでいる。 （3）施設の情報提供 ①「四條畷市立野外活動センターのホームページ」「Facebook」「Instagram」の更新を活発に行うことで、多くの方に施設の情報、自主事業などをわかりやすく提供することに努めた。 利用促進活動では、SNSだけでなく、ダイレクトメール、近隣施設へのチラシの配布に努め、校長会や子ども関連団体の集会など市内団体の会議に出席して施設のPRを行い、広報、利用促進に努めている。また、市内他公共施設の主催イベントへ積極的に参加して利用促進に努めるため、星の話と天体観望のプログラム指導に赴いた。さらに、市内の子ども園から依頼があり、園児たちと真昼のキャンプファイヤーの指導に赴くなど、野外活動センターの広報と地域のネットワーク作りを積極的に努めた。

	（４）安全確保対策 ①施設運営における各種マニュアルを備え、それに沿った対応を図るよう努めており、事故があった際には、事故等管理体制を基に対応している。また、自主的に行っている消防訓練の際には、AED の扱いについても熟知するよう努めている。
維持管理状況	（５）保守点検 ①職員の出勤時、帰宅時には、サイト内点検を行い、施設内に異常がないか、日々の確認と点検に努め、破損箇所は職員の作業で簡易補修、または業者の修繕をあたっている。また、職員の指導のもと、天体機器に精通している市民ボランティアの作業により、天体機器、備品のメンテナンス作業、天体棟内の塗装、整備を徹底的に行っている。また、平成 30 年度には、天体棟の外壁を塗り直し、内装も利用者に快適な環境を提供できるよう作業を進めた。 （６）清掃業務 ①利用受入れ前に、利用者が快適に活動できるよう、活動場所の清掃は、日々職員で実施している。また、利用者が活動中に現場の様子を見に行き、自炊場の水場三角コーナーの生ごみの処理や、トイレの点検などを実施し、野外の施設であっても、人為的に清潔に保たれ、衛生的なキャンプ場であるように努めている。土日等の多くの利用後は、ごみ拾いを行い、キャンプ場内にごみがないよう努めている。また、草刈や枝葉の剪定を行っている。 （７）警備業務 ①職員帰宅後の夜間警備及び火災警備は業者に委託している。 （８）環境への配慮 ①日頃エアコンなどの運転は控え、利用者の居ない時は事務所の電気を節約するなどの経費削減に努めている。利用者にはごみの分別を促すなど、施設として考えられる取組みを継続。段ボール、ペットボトル、缶類等の資源等については、適切な業者を選定し、リサイクルに努めている。
利用状況	年間利用者数は、日帰りが 12,496 人、宿泊が 810 人の合計 13,306 人の利用であった。前年度と比較し、日帰りは 802 人の減少、宿泊も 366 人の減少となった。 利用件数は昨年の 682 件から 612 件の 70 件の減少となった。
収支状況	収支は、430,896 円の黒字であった。

3 利用者へのアンケート調査

項 目	平成 3 0 年度の状況
調査の実施内容	対 象：施設利用者 調査方法：施設利用者を対象にアンケートを配布し、回収した。 回答件数：218 件
調査の結果	施設利用の印象・雰囲気：「良い」186 件、「普通」32 件、「良くない」0 件 職員の対応：「良い」208 件、「普通」10 件、「良くない」0 件 施設予約システムについて：「簡単」141 件、「普通」77 件、「手間がかかる」0 件
主な苦情・意見等	交通アクセスについて、「施設に気づかず通り過ぎた方もいる」。スタッフの対応で感謝の声があげられている。

4 施設の評価

管理運営の総合評価	○5 ●4 ○3 ○2 ○1
講 評	平成 30 年度の猛暑もあり、7、8 月の利用者数が日帰り、宿泊ともに減少しているが、施設のことをホームページで知った利用者が多いことはアンケート結果から見て取れる。また、広報としてホームページに加え、「Facebook」や「Instagram」を活用し、広く周知する工夫をされている。 「施設の印象・雰囲気」、「スタッフの対応」の設問結果にもスタッフのホスピタリティの高さが表れており、それが利用者数の増加に反映されていることは高く評価できる。 施設予約システムに関しては、電話予約での申込みを行い、利便性を図った結果、アンケート調査で「手間がかかる」の回答が無くなるなど利用者のニーズに沿った改善がされている。 大学生サポーターやボランティアなど、市民参画の機会やネットワークづくりに留意し、市民の力をつかった施設運営、就労支援のサポートなどの地域貢献に努めている。 また、本来利用の少なくなる冬場に焚き火など、冬ならではのプログラムや秋に試行的な宿泊を行い、利用者のニーズにあった運営や SNS を利用した広報といった、利用者の確保に努めている。 以上の内容から「計画内容を上回るために大変努力している」と判断し、評価を「4」とする。

（参考）評価の基準

- 5 計画内容を上回る（非常に満足できる）結果
- 4 計画内容をやや上回る（満足できる）結果
- 3 計画内容どおりの（妥当と判断する）結果
- 2 計画内容をやや下回る（不満が残る）結果
- 1 計画内容を下回る（非常に不満が残る）結果